



# 動亂中の露國二怪傑

(三)

世界を敵に戦ふ過激派の巨魁

レーニンの素性

裏面の美性

鐵の如きレーニンの火の如きトロツキー

露國へ歸還

政府の没落

日本の勝利

露國へ歸還

# 外人の日本觀光

は百年の長計を樹つてゐる。満足せぬ連中。釋迦のいはゆる貴重の青年期を送せし者。増上院の徒輩なれば、去るも歩く。増上院の徒輩なれば、去るも歩く。

自働車生俱樂部

預金四億二千八百萬圓 積立金六百五十萬圓

その愚痴を聞かれ、呆れかへる。増上院の徒輩なれば、去るも歩く。

貴重の青年期を送せし者。増上院の徒輩なれば、去るも歩く。

自働車生俱樂部





# 大募人夫集

# 空前の大豊作

チエリーの摘採は始まり、果實のシーニング及び摘み採り其他引續き種物仕事、ビンズのニーニング等ありて年中仕事の絶間無し  
▲他地方よりは特に高給を支拂ふ

## 加州コートランド農業家持一回

首を出したのは七兵衛でありました。おがい申し申したといふが、其の家のには、「こちら様」の松、ちょっと耳を貸して呉れ。七兵衛の來るのは、いつもあはたゞしいのでありました。いつ何時歸るのかわからませんでした。期約して夜中に合図をしないで、意氣地の無いやうな爲に、俺はその事で兵馬さんの連れて、いつ何時歸るのかは笑き留めて夜中には、くとでもお松は慣れてゐるのでありました。

「一兵馬さんはゐるよ、うも、うむ、此の甲府の中に、それはな思ひがけない處で、逃げ込んでゐるからまあ今の處は無事だ。今までの如きの御用を守りぬかねば、

|   |   |
|---|---|
| <p>思つてゐるんだ<br/>犬がゐて<br/>な話だが、犬が<br/>くらへに寄つて<br/>まう、やつとれ<br/>逃げ込んだ事だ<br/>未だんだ、うれ<br/>あの畜生に</p> <p>は、處なんで<br/>ちさんが行け<br/>どか工夫<br/>が何とか工夫<br/>の都の御役宅<br/>の邸だ</p> | <p>思つてゐるんだ<br/>犬がゐて<br/>な話だが、犬が<br/>くらへに寄つて<br/>まう、やつとれ<br/>逃げ込んだ事だ<br/>未だんだ、うれ<br/>あの畜生に</p> <p>は、處なんで<br/>ちさんが行け<br/>どか工夫<br/>が何とか工夫<br/>の都の御役宅<br/>の邸だ</p> |
| <p>HOTEL FUJI</p> <p>423 Maynard Ave.<br/>Seattle, Wash.</p>  | <p>ロスアンゼルス<br/>迎歓</p>   |

バカビルの農園  
は高給を支拂ふ  
バカビル日本人會農事部  
電話A二八六七  
市東二街三〇五  
—ムシーラー—選舉の改編ある延  
リして然も宿泊料の低廉なる特徴で  
於此宿泊料の奇高は前以て報知連報に  
に關し必ず要る事早速返事申上候  
ド市  
**藤井旅館**

六月廿ツクスノ摘採時期は、当地左の場所を示す。

アリゾナ州フイニックス市を中心として  
耕作面積四千五百英加  
グレンデール、メサ地方  
カ本年の甜瓜耕作は昨年より遙かに有望なる成績  
し且つ其の數及面積み於て著しく發展増加せり故  
多數の労働者を要する勿論なり  
は近けり本邦労働者獨特の手腕を振つて一儲けせんとする諸君はフイニ  
市へ來れ!!!  
六日頃より始まる(當地方は丁度帝國平原の後を追ふて收穫期に入るのですめ)  
希望の御方は農事部に照會あれ▼  
アリゾナ日本人會

▲珈琲や紅茶は、鳥龍茶は、一寸見たところ茶であるし、莫子の代用にもなるつまり茶だと如何しても莫子を添へないで淋しいが、珈琲や紅茶だとそれ自身が莫子の代用になつて居るから經濟的なので會社員銀行員の中流者には此傾向があるのも事實です。又綠茶が買れないで煎茶や番茶の安い茶が多く賣れて居るのも事實だから茶の產出額も年々増加し消費額も増加してゐるから珈琲や紅茶に範圍を狹められることはしない年々

▲に國の爲めなれば致し方。小作の挽き馬をもなが、東京では區競争で地方大審院に各々の品の書記が治る人で小用に行つてもあるが不仕入になるからこれは自分の都合で一人の補助者を泊まらせる慣例になつて居る然し裁判所から命ぜられた宿直員ではないのだから一錢の手當も出ない自腹で支給して居ると廢した

中學授業料引上

▲物價賃貸の影響、下の書で詳説するも東京市内の私立中學校女學校に

省の査定範圍内に於て切盛るを得るものあるを以て或は第四十二議會に於て其削減額一千五百圓を八年度の追加預算とし

各種果實摘要  
採既に開始せり

農人園員名

送すのは一年の技  
P. O. Box 73 Vernalis Cal.  
東洋研究所式會社  
農園雜種勞働 ..... 一時間四十仙以上支拂ふ  
▼年中仕事あり ..... 月給若くは年俸委細面談  
▼機械類仕用者 ..... 高給を拂ふ年中仕事あり  
桑港運送會社  
ラグナ街一五三五電タエスト六八〇二夜間フキルモアニ  
ナ街一六〇一電話タエスト七一七

五年の長い歴史を持てて廢業した悲劇の演じられたもの。昨日のやうなれど早や一過意地くなつたる芳香な新茶の時季をなり既に各店で賣出されて居る。阜陽の主人が呪ふた程に茶は未だ世紀となつたうか京橋宗十郎町の茶業組合の事務員は語る。濃厚な西洋料理の食後にほん泊めとした茶は口に含みやすく甘美で、茶葉は紅茶の濃厚なものが矢張り好いの現今のやうに食物が西洋化して来るご茶が歡迎されなくなる。アトルに日本喫茶店を設立するアラジン政府の如く大半を之に投注せば、あつた時は只飲むが業の擴張に務めて居るが世界の物で當組合では、静岡の安西に紅茶を下宿屋などで茶をなして居る家は時々殆どある。昔の家では、普通の家では少く主に1斤一圓五分以下の煎茶です、茶店は女

貴政の御見舞を聞く  
吉川夢二「雪地のほんぢら  
三重川安三「王妃の戀文  
桃川山春子「裁縫の仕方  
市子鉢鑄下「能補元方法  
田代高信「無浦道人  
水戸黄門「日記  
白川田尋作「幽懐の園  
澤田次郎「戀文  
原田白次郎「恋文  
徳田秋聲「傍の花  
豊田大彦「哀傷は賢い母妻  
中村東岳史「華美櫻  
喜多半蔵「花瓶男  
三浦太郎「御庵の座蒲  
谷崎潤一郎「地に煙けづけ  
伊藤尚質「幻の華  
伊藤尚質「魔術の秘密  
伊藤尚質「怪談百十  
華冴連と  
医風の怪談

# 農家の二三事

# 新茶の季節が來た

も増加率は内地に於けるものよりも底意地である。生田島川武道連は、有坂寺津原吉の如きが、年度同様製錬所の外に五千人弱間で、本問題に關する議論が、主として、上野・久留米・福岡の三都に於て、正治新時の大露義教の如きの宗教團體によるものである。

卷之二

步合耕作者募集





